

平和の使者、スクーター「シルバーピジョン」

戦後、みづほ自動車製作所のビスモーターと同じくらいに早く1947(昭和22)年に登場した三菱名古屋機器製作所製のスクーターがシルバーピジョンである。

スクーターはバイクモーターと違ってエンジン部がスッポリとカバーされていて運転者の足元にステップ上のフロアを持ち、フロアに両足を揃えて2輪で走行する乗り物である。シルバーピジョンは、群馬県の富士重工(現:スバル社)のラビットスクーターと市場を二分していた。三菱も富士重工も共に戦争中は零戦や雷電など航空機を生産していたが、戦後に平和産業に転換した。

その事業の一つがスクーター生産であり、シルバーピ



シルバーピジョンC10型

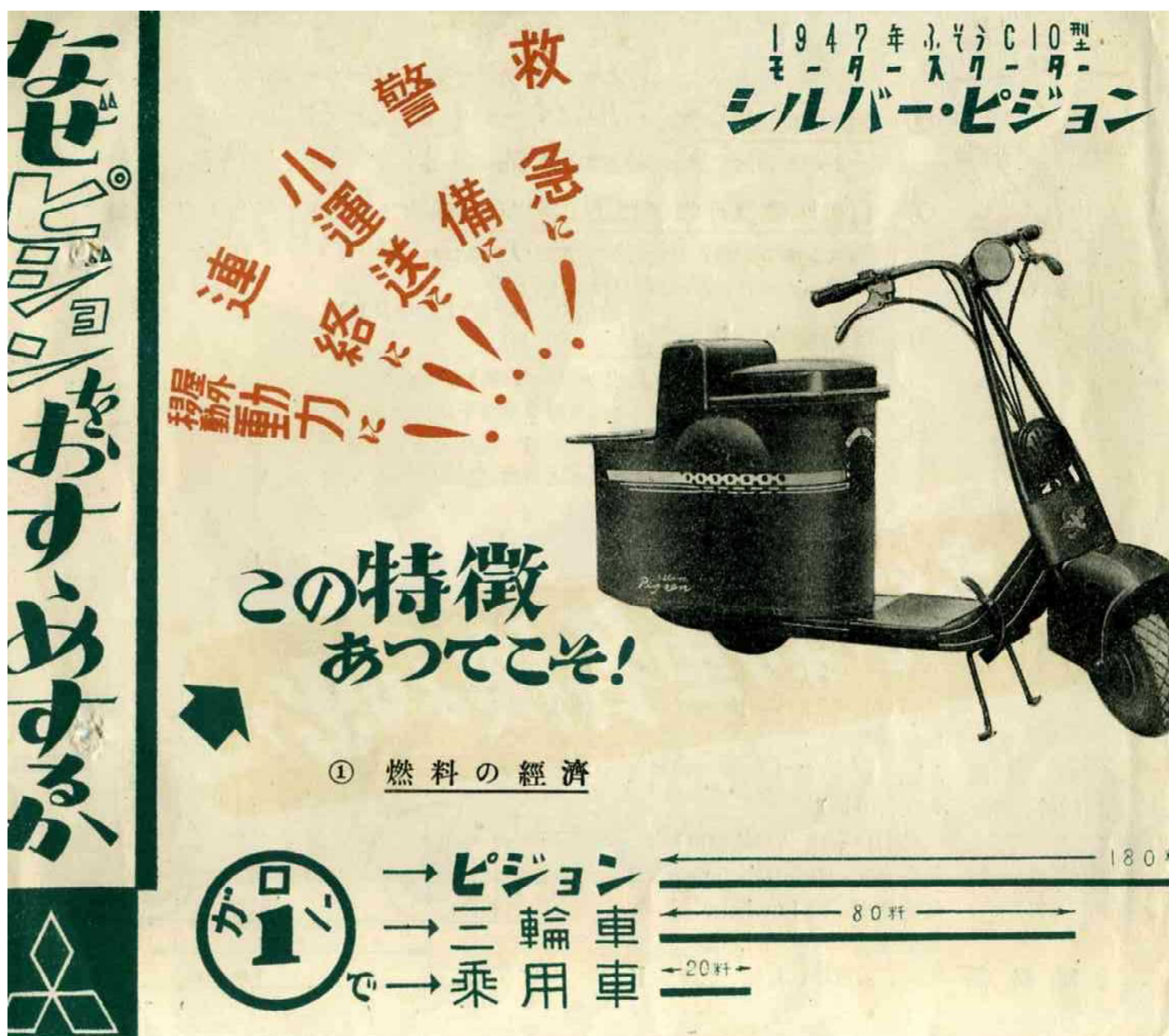
ジョン

の1号車「ふそうC-10型」は、終戦の丁度1年後の1946(昭和21)年8月に完成した。車名は平和の象徴である鳩にちなんでいる。

シルバーピジョン1号車は米国製のサルスベリー社のスクーター「モーターグライド」をモデルとしていて、搭載エンジンは、単気筒サイドバルブの4サイクルガソリンエンジンで、排気量113cc、出力1.5馬力であった。Vベルトによる自動変速機を備えていた。使われた鋼材やゴムなどの素材は戦争中の廃材品で、タイヤは飛行機の尾輪が再利用されていた。エンジンはキックすらなく押しがけスタート方式だった。ちなみにスクーターの語源は英語で「エンジンのついたスケート」の意味である。

シルバーピジョンは、1号車C-10型から生産を中止する1964(昭和39)年まで24機種に及び、総

生産台数は463,000台以上。最終のC-140型、C-240型は2気筒の4サイクルエンジンを搭載していた。シルバーピジョンの生産を中止したのは1961(昭和36)年である。同年、軽四輪自動車「三菱360」の製造販売を開始したのに伴うもので、岡山県の三菱重工業水島製作所のオート3輪車と合わせてスクーターの生産を打切った。



シルバーピジョンC10型のカタログ

丸山康次郎 (1877 ~ 1955) の記念碑



米国製のサルスベリー社のスクーターを紹介し、スクーター及び農務用エンジン等の開発に寄与した丸山康次郎(1877-1955)を称え、中村区岩塚町の三菱重工業(株)岩塚事業所(旧三菱重工(株)名古屋機器製作所)本館前に「メイキエンジンの父」として記念碑が建てられている。

←「メイキエンジンの父」の碑

(三菱重工業(株)岩塚事業所)